

平成30年度 宝木小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる判断力、新しい時代を拓く^{フロンティアスピリット}開拓者精神に基づく実践力を持ち、夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）

よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）

やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にしていとほかかわり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

学校のシンボルとなっているメタセコイアの木がある。絶滅したと考えられていたこの木は、中国で発見され現在に至ることから、「生きている化石」とも言われる。メタセコイアには壮大な過去があり、そして今がある。そして、未来へと、その生命を繋いでいく。力強い生命力（生きる力）に、宝木小の子どもたちの成長を重ね合わせたい。

夏には木陰をつくり、やさしくそっと子どもたちを包むメタセコイア。その姿のように、子どもたちの心に「やさしさ」を育てたい。前に進もうと努力するときは、力強く根を張るメタセコイアの「勇気」を感じさせたい。メタセコイアの前で、共に遊ぶときに広がる笑顔と喜び、日々の学習や活動での、「できた喜び」「分かった喜び」「伸びた喜び」を大切にしたい。そして、メタセコイアが大空に向かってぐんぐん伸びる姿に、未来への「夢」をえがく子どもたちに育つことを願いたい。

メタセコイアが教えてくれる「やさしさ 勇気 喜び 夢」、それは、メタセコイアと共に成長してほしい宝木小の子どもたちの姿であり、本校教育活動の理念である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 子どもにとって、わくわくする楽しい学校

・アプローチⅠ：授業で勝負！ 学力向上を目指した授業づくり

・アプローチⅡ：Ⅱ：認め励まし、教え導く！ 規律と活気、思いやりのある学級づくり

(2) 保護者にとって、安心して子どもを通わせられる学校

・アプローチⅢ：保護者とスクラム！ 子どもたちの健全な成長を目指す協働体制づくり

(3) 地域にとって、信頼できる開かれた学校

・アプローチⅣ：地域の学校として！ 地域の皆さんとの強いきずなづくり

(4) 教職員にとって、自分の力を発揮できる、働きがいのある学校

・アプローチⅤ：先生もいきいきと！ 教職員一人一人が活躍する学校づくり

平成30年度スローガン “やる気と自信を 学校・地域に誇りを 人とのふれあいを大切に”

[陽西地域学校園教育ビジョン]

共に学びあい、互いのよさを認め合う人づくり ―社会的自立を目指すキャリア教育を通して―

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

・「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」を軸とした特色ある教育活動の推進

【学 習 指 導】

・学年や個の実態に応じた実効的な取り組みの学校全体での実践。

○校内研修サポート事業と連携した新学習指導要領を見据えた授業研究会による授業力向上。

・考えを書く、まとめるなど多様な活動を通した書く力の向上。

・学力調査等を活用し、学習に係る課題と要因をはあくした上での共通実践の工夫。

・「通常学級での特別支援教育」の視点に立つ多様性への対応。

【児童生徒指導】

- 生命と人権の尊重を軸とした、いじめを許さない態度や実践力の育成（いじめの運動と保護者への啓発）
 - ・体験活動などの充実をによる、宮っ子心の教育の推進
- 基本的生活習慣の形成（「児童のやくそく」の徹底）
 - ・校内支援委員会の一層の充実（配慮を必要とする児童の早期発見と適応部会を核とした組織的対応）
 - ・学習情報システムの活用による、児童の記録累積と活用

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 教科体育でのサーキットの実施や、活動の場の工夫による運動量の確保。
 - ・運動委員会との連携による各種大会、外遊びの取り組み。
 - ・各学年の実態に応じた年間指導計画の検討と効果的な運用。
- 9年間の段階を踏んだお弁当の日の取り組みと食育や・安全な給食指導の充実。
- 早寝早起き朝ごはんの啓発および養護教諭との連携した取り組み。
 - ・家庭や地域と連携した登下校の見守りと、安全な学校生活や危機対応訓練の充実。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
 ※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、学校が好きである→90%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である →90%以上	ゆとりのある日課の中で、事前指導から事後に至るまで <u>活動のめあてを明確にして主体的な活動を促す</u> 。また、働き方改革を進めるとともに、子どもと共に過ごす時間の確保をさらに工夫していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 89.6%(90.8%) 保護者の肯定的割合 92.9%(91.5%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 活気ある学校づくりを推進できるよう、学習活動や行事などの活動のめあてを明確にして、児童の主体的な活動を促す。また、ゆとりある日課の中で、子どもと共に過ごす時間の確保をさらに工夫し、働き方改革を推進する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 <児童アンケート>先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる →90%以上 <保護者/地域住民アンケート> 教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している →90%以上	全校体制で授業の中で、 <u>めあての明確化や振り返りの活用</u> などを継続する。教科指導における指導力を高めるため、研修サポート事業の継続や一人一授業の実践を継続していく。また、保護者・地域住民に対して、学校だよりや学年だより、学習だよりで本校の学習状況の取り組みを知らせたり、授業参観を利用したりして積極的に情報を発信していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 98.6%(97.8%) 保護者の肯定的割合 92.6%(89.2%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 ほめて育てること基本に学習指導と児童指導の両面から子どもたちの学びを支える姿勢を一貫しさらに自己肯定感を高めるため、授業力のより一層の向上を図るため、研修サポート事業や一人一授業の実践を継続していく。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している →80%以上	「きまりの徹底」の重点項目の一つに廊下の歩行についての項目を入れ強化週間には、児童会で高学年児童が主体的活動をするなど注意を促し決まりの徹底を図る。 児童の実態に合わせた月2回の生活目標の設定を生活当番の組織を活用して行う。	【達成状況】 児童の肯定的割合 79.2%(83.6%) 保護者の肯定的割合 89.4%(90.9%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 ・「きまりの徹底」については、廊下の歩行について高学年が中心ではなく、学校全体全員が取り組んでいくようにしていく。 ・児童の実態に合わせた月2回の生活目標は基本年間計画に合わせているが、状況に応じて変えているので今後も継続指導していく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞先生方の授業は、分かりやすく、丁寧に教えてくれる →90%以上 ＜保護者アンケート＞教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている →80%以上	外部講師を招いての授業研究会や「一人一授業」を継続実施し、互いの授業を見合うことで授業の質的向上を目指すとともに、日々の授業を充実させ、分かる授業を展開する。T・Tの活用や教材を充実させることで、きめ細かな指導を推進するとともに、<u>児童の思考を理解した上で児童に寄り添った支援を実施</u>していく。	【達成状況】 児童の肯定的割合 96.3%(95.2%) 保護者の肯定的割合 83.4%(81.9%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 ○授業研究会や「一人一授業」を継続実施し、自分の授業を見直し授業を見る目を鍛えることで教師の授業力を向上させる。習熟度別学習の実施や教材を充実させることで、きめ細かな指導を推進するとともに、児童の思考や理解に寄り添った支援を実施していく。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる →90% ＜保護者/地域住民アンケート＞学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。 →80%以上	日常のきめ細かな観察に加え、いじめ0月間に重点的に道徳の授業や児童会中心に<u>集会を開くこと</u>でいじめ対策に取り組む。本校のいじめ対策や取組状況について児童指導だよりを特別号という形で情報を提供できるように努めることで、保護者・地域住民と連携して、共に児童を見守る。	【達成状況】 児童の肯定的割合 99.5%(97.7%) 保護者の肯定的割合 83.2%(63.8%) 地域住民の肯定的割合 100%(90%) 【次年度の方針】 ・いじめゼロ集会の開催に加え、今年度から児童指導だよりの発行を行っているので、次年度以降も引き続き、学校の状況や児童に実態に目を向けたものにも取り組んでいきたい。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 ＜児童アンケート＞自分は、学校での生活や様々な活動が充実している →90%以上 ＜保護者アンケート＞学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。 →90%以上	定期的に教育課程の実施状況や行事の取組を振り返り(Check)改善が必要な項目について検討しながら(Action)計画を修正し引継ぎ(Plan)できることから実践(Do 場合によっては次年度)する。また、新教育課程への移行を確実に実施する。	【達成状況】 児童の肯定的割合 89.3%(90.8%) 保護者の肯定的割合 96.6%(94.5%) 【次年度の方針】 今年度同様、定期的に教育課程の実施状況や行事の取組を振り返り(Check)改善が必要な項目について検討しながら(Action)計画を修正し、引継ぎ(Plan)できることから実践(Do 場合によっては次年度)する。また、児童の実態を考慮しながら、新学習指導要領への移行を見据え、教育課程の編成を工夫改善していく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している →90%以上	ホームページや各種たよりにおいて、効果的に情報発信を行っていくよう工夫・改善を図る。学年だよりの中には児童の様子ほかに、定期的に学習状況や児童指導の状況を伝えていくようにする。	B 【達成状況】 保護者の肯定的割合 93.0%(92.0%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 今年度有効だった学習指導や児童指導の情報発信を継続する。また、ホームページや各種たよりにおいて、効果的に情報発信を行っていくよう工夫・改善を図る。学年だよりの中には児童の様子ほかに、定期的に学習状況や児童指導の状況を伝えていく工夫を継続する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 <児童アンケート>自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい。→85%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、家庭・地域/企業と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 →85%以上	「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携事業計画一覧」にそって、魅力ある学校づくり地域協議会やPTA、保護者、地域社会との連携をさらに推進し、社会に開かれた教育課程の理念へ向かって地域に根差した学校づくりを推進する。	A 【達成状況】 児童の肯定的割合 90.8%(89.5%) 保護者の肯定的割合 91.1%(91.6%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 今年度の活動状況を踏まえ、「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携事業計画一覧」を見直し、次年度のカリキュラムマネジメントに生かす。また、魅力ある学校づくり地域協議会やPTA、地域社会との連携をさらに推進し、社会に開かれた教育課程の実現に努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 <児童アンケート>学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい気持ちのよい環境である →85%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である →85%以上	安全で気持ちのよい環境づくりを推進し、清潔にする意義や清掃の仕方を理解させ、清掃活動に進んで取り組む児童を育てることに努める。オリエンテーションの時間を設けて、きめ細やかな清掃指導を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的割合 86.8%(88.0%) 保護者の肯定的割合 90.2%(92.5%) 地域住民の肯定的割合 100%(94.1%) 【次年度の方針】 清潔にする意義や清掃の仕方を理解させ、清掃活動に進んで取り組む児童を育てることに努める。きめ細やかな清掃指導を行うため、掃除場所のローテーションを揃え、オリエンテーションの時間を設ける。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 <児童アンケート>学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。 →85%以上 <保護者/地域住民アンケート> 学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 →80%以上	月ごとの校長会議、各部会の活動の充実を図るとともに、2回の全体研修会や教科部会をさらに効果的に運営していくことで、系統立てたカリキュラムの整備等に努める。乗入れ授業や生徒指導連絡会等の小中学校職員の交流を深めるとともに、キャリア教育を中心に据えたテーマに迫っていくことを目指す。	B 【達成状況】 児童の肯定的割合 89.0%(88.2%) 保護者の肯定的割合 79.3%(80.8%) 地域住民の肯定的割合 92.3%(100%) 【次年度の方針】 乗入れ授業や生徒指導連絡会等の小中学校職員の交流を深めるとともに、キャリア教育を中心に据えたテーマに迫っていく。地域学校園における児童の実態から各部会における目標を設定し、実践することで、各部会活動の充実を図る。また、全体研修会や教科部会も効果的運営に努める。

教育活動の状況		A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 ＜教職員アンケート＞多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。→80%以上	職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解する。互いに尊重し合いながら組織の中で責任を果たすことで業務の縮減を図っていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合 77.8%(* %) 【次年度の方針】 引き続き職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解できるよう努めていく。互いに尊重し合いながら組織の中で責任を果たすことができるよう、業務の明確化と整理を図っていく。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 ＜教職員アンケート＞多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。→80%以上	職員一人一人が学校組織の中で機能的に専門性を発揮していくために、互いの立場を思いやりながら進んで円滑なコミュニケーションを図り、チームワーク良く教育活動を推進していく。	A	【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(* %) 【次年度の方針】 ひとりひとりの職種を互いに理解したうえで学校組織の中で機能的に専門性を発揮していくために、互いの立場を思いやりながら進んで円滑なコミュニケーションを図る。チームワーク良く教育活動を推進し学校劣を向上させていく。
		B1 家庭・地域社会との連携・協力をもって、教育目標達成をめざしている。 【数値指標】 ＜保護者/地域住民アンケート＞学校の様子がよく分かり、また伝える場がある→80%以上	各種便りやホームページを活用して、学校の取組を積極的に情報発信していく。とくにいじめ対策の取り組みについてよりわかりやすく外部に伝える工夫をする。保護者との連携をさらに密なものにするために、授業参観と懇談会、家庭訪問や個人懇談も学校・保護者双方の負担を軽減しながらさらに充実・継続していく。	B	【達成状況】 保護者の肯定的割合 75.7%(70.7%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 これまで同様、各種便りやホームページを活用して、学校の取組を積極的に情報発信していく。また、保護者との連携をさらに密にして教育目標達成をめざすために、授業参観と懇談会、家庭訪問や個人懇談について、実施方法等を工夫しながら継続・充実を図る。
	生活	A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、時と場に応じたあいさつをしている→85%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、時と場に応じたあいさつをしている→80%以上	児童会中心に児童の自発的なあいさつ運動が展開されるよう指導する。教職員も率先してあいさつをするとともに、同一步調で児童の意識を高めて、家庭と連携した取組、環境づくり等の指導を継続していく。<u>さらに陽西地区地域学校園であいさつの時期を合わせ、児童会を中心にあいさつ運動が行われるようにしていく。</u>	A	【達成状況】 児童の肯定的割合 90.4%(91.4%) 保護者の肯定的割合 75.7%(74.3%) 地域住民の肯定的割合 85.7%(100%) 【次年度の方針】 引き続き、児童会中心に児童の自発的なあいさつを促す運動をする。教職員が率先してあいさつをするとともに、称賛し児童の意欲を高める。また、家庭と連携した取組を継続する。陽西地区地域学校園であいさつ運動がさらに活発に行われるようにしていく。

健康・体力	A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞時と場に応じた言葉づかいをしている →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている →70%以上	教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範する。授業中・休み時間等の児童の言動に留意し、必要に応じてその場で指導を加えることにより校内の言語環境を整えていく。「きまりの徹底」の重点項目の一つに言葉遣いを入れて正しい言葉遣いができるようにしていく	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 77.5%(82.2%) 保護者の肯定的割合 73.0%(71.8%) 地域住民の肯定的割合 92.9%(94.1%) 【次年度の方針】 引き続き必要に応じてその場で指導をしていくことを続けていく。 来年度は言葉遣いについて項目を入れるようにしていく。
	B2 相手を尊重し、思いやる心を大切にしながら人と関わっている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、友だちを大切にしている →90%以上 ＜保護者アンケート＞相手を尊重し、思いやる心を大切にしている。 →80%以上	縦割り班活動班や児童会活動、行事などを通して、お世話になった人への感謝の気持ちや、お互いの良いところを認め合う場、異年齢交流の場を設定する。いじめ防止の基本理念に基づき、<u>教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育ててく</u>。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 89.6%(90.4%) 保護者の肯定的割合 85.0%(81.5%) 【次年度の方針】 学級経営の中で、毎日生活を共にする級友同志が互いに認め合い、相手を尊重し、思いやりの心を醸成できるような場や時間を設定する。 縦割り班活動班や児童会活動、行事などを通して、お世話になった人への感謝の気持ちや、お互いの良いところを認め合う場、異年齢交流の場を設定する。いじめ防止の基本理念に基づき、<u>教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育ててく</u>。
	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している →85%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、平日の授業後や休日などに積極的に運動している →70%以上	<u>検定カードをより実態に合った内容に改善</u>することで、児童の意欲を高める。<u>学校生活内での運動時間を増やすために</u>、体育授業の初めにトラックを走ったり、朝の時間に教室で行える運動を実施したりする。質の高い体育授業を行えるよう、一定期間用具を使いやすい位置に配置したり、そのために年計を調整したりする。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 85.0%(89.4%) 保護者の肯定的割合 65.5%(63.2%) 地域住民の肯定的割合 100%(70.0%) 【次年度の方針】 鉄棒検定カードを児童の実態に合った内容・形式のものに修正し、実施することで、運動への意欲を高め、運動習慣の定着を図る。 昼休みは、特定の理由があるもの以外は、原則外で過ごす規則を立てることで、運動時間の確保、運動習慣の定着を図る。
	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、好き嫌いなく給食を食べている →80%以上 ＜保護者アンケート＞自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている →70%以上	担任と学校栄養士が連携し、給食時や学級活動の時間を活用して、児童の「食」に関する意識を高める。味覚を育て、<u>食の楽しさを体験できるよう献立や食材や食べ方を工夫する。</u> ホームページや各種たよりで給食の様子を保護者に伝え、家庭と連携して偏食が少なくなるよう児童を励ましていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合 90.0%(77.8%) 保護者の肯定的割合 76.7%(70.2%) 【次年度の方針】 担任と学校栄養士、地域生産者が連携し、給食時や学級活動の時間を活用して児童の「食」に関する意識を高める。食の楽しさを体験したり、味覚を育てたりできる献立や食材、食べ方を工夫する。ホームページや各種たよりで給食の様子を保護者に伝え、家庭と連携して偏食が少なくなるよう児童を励ましていく。

	B3 児童は、弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。 →85% ＜保護者/教職員アンケート＞児童は、お弁当の日や給食でマナーや栄養のバランスについて学ぶことができる。 →85%以上	給食を活かしたお弁当の日の取組で家庭と連携した学習プリントを活用する。 食の関連行事・授業・給食委員会の活動など日常の「食」に関する活動を食育だより等で周知して家庭と連携した食育の推進にさらに努めていく。	【達成状況】 児童の肯定的割合 90.4%(88.2%) 保護者の肯定的割合 93.1%(93.2%) 【次年度の方針】 給食を生かしたお弁当の日の取組で家庭と連携した学習プリントを活用する。 地域学校園共通の取組や食の関連行事・教科等の授業・給食委員による校内放送などの「食」に関する活動について、食育だよりや HP で保護者に発信し、家庭と連携して食育を推進していく
学 習 等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している →85%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している →80%以上	授業では、教材やワークシート、展開を工夫することで、児童がめあてに沿って進んで学習に取り組めるようにしていく。<u>「学び合い」や「振り返り活動」を効果的に取り入れることで、児童が考えたり話したりする機会を確保し、主体的に学ぶ態度を育成する</u>	【達成状況】 児童の肯定的割合 85.1%(89.8%) 保護者の肯定的割合 85.4%(83.9%) 【次年度の方針】 ・授業では、児童が主体的に取り組めるよう教材、ワークシート、展開を工夫し、誰もが進んで学習に取り組めるようにしていく。学習形態を工夫したり「学び合い」を効果的に取り入れたりすることで、児童が考えたり話したりする機会を確保し、主体的に学ぶ態度を育成する。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している →85%以上 ＜保護者アンケート＞児童は、授業中に先生や友だちの話をよく聞くなど落ち着いて学習している →85%以上	「話し方・聞き方の決まり」を活用し、全校で共通理解した上で、年間を通して指導を徹底し、児童の意識を高めていく。特に、<u>話を聞く態度については、指導を徹底することで望ましい学習習慣を身に付けさせていく。学習のきまりについても、継続して指導をしていく。</u>	【達成状況】 児童の肯定的割合 81.5%(83.0%) 保護者の肯定的割合 84.1%(88.2%) 【次年度の方針】 ・読書を推進し、「読み」の基礎学力の向上を図るとともに、朝の読書を活用し朝から落ち着いて学習に取り組めるようにする。話を聞く態度については、指導を根気強く続けることで望ましい学習習慣を身に付けさせていく。学習のきまりについても、継続して指導し、学習に集中できる環境づくりに取り組んでいく。

本校の特色・課題等	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 ＜児童アンケート＞児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 →80%以上	地域の各種団体と連携を密に取りながら、地域とともに<u>行う教育活動の充実を図り</u>、地域行事の意義や役割を理解させ、行事には進んで参加することができるようにする。	A	【達成状況】 児童の肯定的割合 78.7%(* %) 保護者の肯定的割合 61.3%(* %) 地域住民の肯定的割合 90.9%(* %) 【次年度の方針】 地域行事の意義や役割を理解させ、行事には進んで参加することができるよう啓発活動を活発にする。地域の各種団体と連携を密に取りながら、地域とともに<u>行う教育活動の充実を図る</u>。
	B4 自ら考えたり、友だちと話し合ったりしながら、問題を追究しようとする。 【数値指標】 ＜保護者アンケート＞児童は、自分の考えを持てるようになってきている。 →85%以上	授業では自分の考えをもつ場を意図的に設定し、考える習慣とスキルを身に付けるとともに、自分の考えをノートに書くことで表現力も育成していく。<u>ペア学習やグループ学習を意図的に設け、共に学ぶよさが実感できるようにする。</u>	B	【達成状況】 保護者の肯定的割合 87.0%(86.3%) 【次年度の方針】 ・授業では全員が自分の考えをもつ場を意図的に設定し、考える習慣とスキルを身に付けるとともに、自分の考えをノートに書くことで表現力も育成していく。ペア学習やグループ学習を意図的に設け、共に学ぶよさが実感できるようにする。
	B5 児童像実現のための、本校宝木の子プロジェクト（やさしさ・勇気・喜び・夢）が主体的・積極的に推進されている。 【数値指標】 ＜教員アンケート＞主体的にプロジェクトに関わり、創造的に改善に取り組んでいる。 →80%以上 ＜保護者/地域住民アンケート＞学校は、教育目標達成のために工夫している。→80%以上	宝木の子プロジェクトの教育活動の「喜び」を重点的活動とし、研修サポート事業の継続や頑張る学校プロジェクトの活用を推進し、さらに活動の改善・充実を図る。 また、学校の取組について保護者に情報の発信をしていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合 100%(100%) 保護者の肯定的割合 85.7%(83.4%) 地域住民の肯定的割合 100%(100%) 【次年度の方針】 宝木の子プロジェクトの教育活動の重点的活動を絞り込み、研修サポート事業の継続や頑張る学校プロジェクトの活用を推進し、さらに特色ある活動の改善・充実を図る。また、学校の取組についてさらに保護者に情報の発信をしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

いじめ対策への熱心な取り組みが評価されたことには、各学級でのいじめを未然に防止する受動的な雰囲気作りやトラブルが生じた際のチーム体制の取り組み、児童指導に関する便りの配布などが理解されていると捉えられる。一方言葉遣いや学習への意欲的な取り組みに関して児童の肯定的な割合が低くなっている。自己肯定感を高める「ほめて伸ばす」指導をさらに推進し、併せて「わかる・できる・楽しい授業づくり」の研究をさらに進め、学校園における教科部会の充実とも関連させながらさらに課題意識をもって取り組んでいく必要がある。専門性をもったスタッフとの協力体制の整備やコミュニケーションの深化、協働性の構築は働き方改革の視点からも今後一層研究を進めていく必要がある。社会に開かれた教育課程の実現に向けて地域連携の方策も、引き続きより良い方向を模索していく必要がある。

6 学校関係者評価

教職員、保護者、地域住民、児童とアンケートの対象によって値が違っていることに注意して細かく分析する必要がある。例えば NO14 の言葉遣いの項目では教職員の値は昨年に比べ向上しているが、児童の値は加工している点など注目に値する。指導に力を入れたことによって言葉遣いへの意識が高まった結果ととらえることもできるかもしれない。あいさつについては普段感じている通りの結果が出ており、大人から見た値は総じて低くなっている。学校における取り組みも重要だが、学校園での取り組みや児童会を主体としたあいさつ運動などすでに工夫した取り組みがなされているので、さらに家庭や地域が連携してあいさつができる子を育てていくことが重要である。いじめについては学校の取り組みが地域や家庭に理解されてきていることがうかがえる。体罰や暴言、虐待の問題も含めて子どもたちの人権を守っていく取り組みは今後も引き続き重点的に取り組んでいく必要がある。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「教職員は協力し、児童生徒の良いところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。」の肯定的回答の割合が保護者において 3.4 ポイント向上し、いじめへの対応についての高い評価を得られた点においては、本年度の重点目標がある程度達成できたことを示している。学習への意欲や、話し合い・発表への意欲についても保護者や地域住民の評価が高まりつつある点も研修サポート事業を通して授業研究を重ねてきた一定の成果が表れている。

また、学校関係者評価として、本校の魅力ある学校づくり地域協議会において本年度の成果と課題について活発なご意見をいただいたことは、学習指導要領が改訂され、社会に開かれた教育課程の推進をしていくうえで参考になる部分が多い。地域住民ならではの数年間を振り返っての学校への提言は大いに生かしていきたい。

学校の抱える課題に適切に対応し、児童や保護者、地域の期待に十分に答えていく学校づくりをしていくためには、働き方改革への取り組みや専門性を持ったスタッフの力を結集してチーム学校として確固たる教育力を気付いていくこと等、常に新しい視点を取り入れ、いろいろな角度から検証することを通して、有効な PDCA のサイクルによるマネジメントを働かせていく必要がある。